



# 那珂川町 人口ビジョン

令和 8 年 3 月  
那珂川町



# 目次

第1章 人口の現状分析	1
1 総人口と年齢(3区分)別人口の推移	1
2 自然増減と社会増減	2
3 婚姻数と婚姻率	4
4 合計特殊出生率	5
5 転入元と転出先	6
6 移動数	7
7 通勤の状況	8
8 通学の状況	9
第2章 人口推計(社人研推計準拠)	10
第3章 人口の将来展望(独自推計)	11



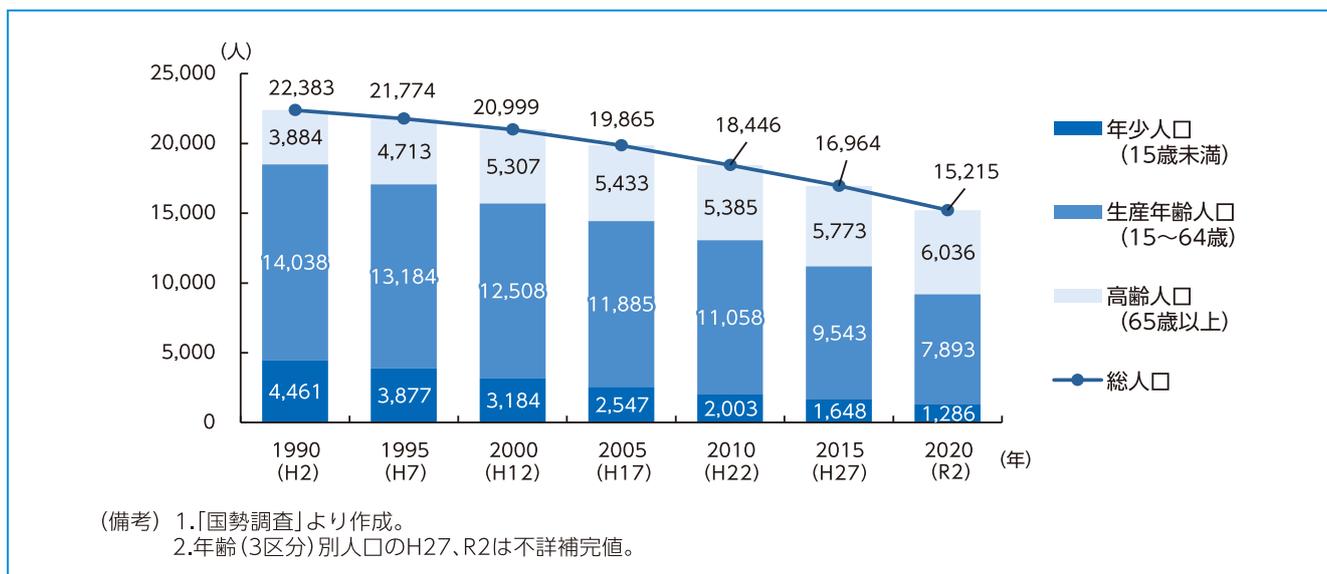
# 第1章 人口の現状分析

## 1 総人口と年齢(3区分)別人口の推移

本町の総人口(2000年までは旧馬頭町・旧小川町の2町の合計)は、県内一のスピードで減少しており、1990年代から2000年までは20,000人以上でしたが、2020年時点では15,000人程度まで減少しています。

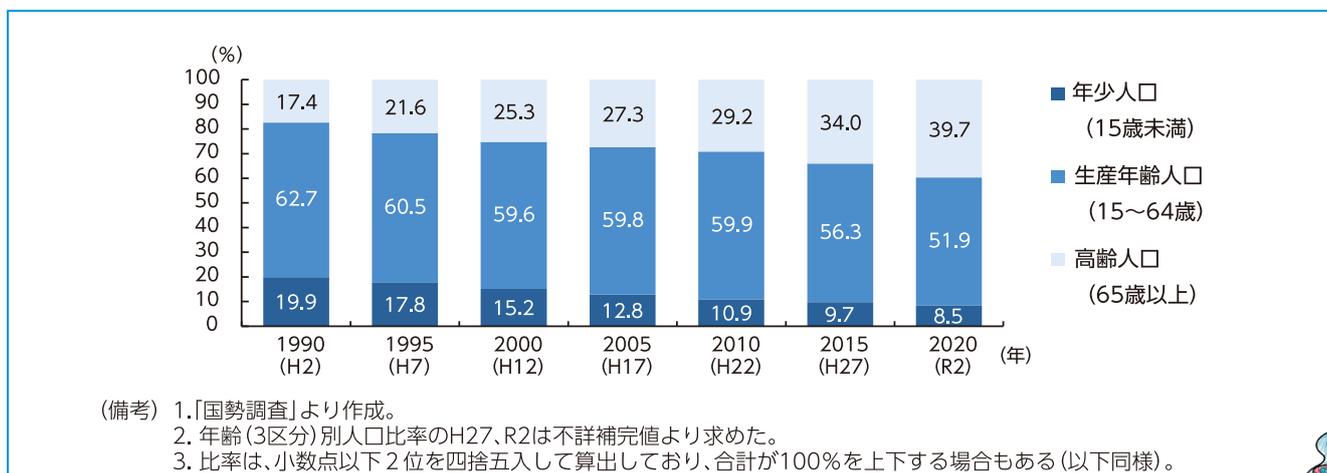
また、高齢人口比率(高齢化率)は一貫して上昇し、2020年には39.7%に達する一方で、生産年齢人口比率と年少人口比率は一貫して減少し、少子高齢化、特に高齢化が著しく進んでいることがうかがえます。

図表1 総人口と年齢(3区分)別人口の推移



※参考:令和7年10月1日現在の住民基本台帳人口は13,877人。

図表2 年齢(3区分)別人口比率の推移



## 2 自然増減と社会増減

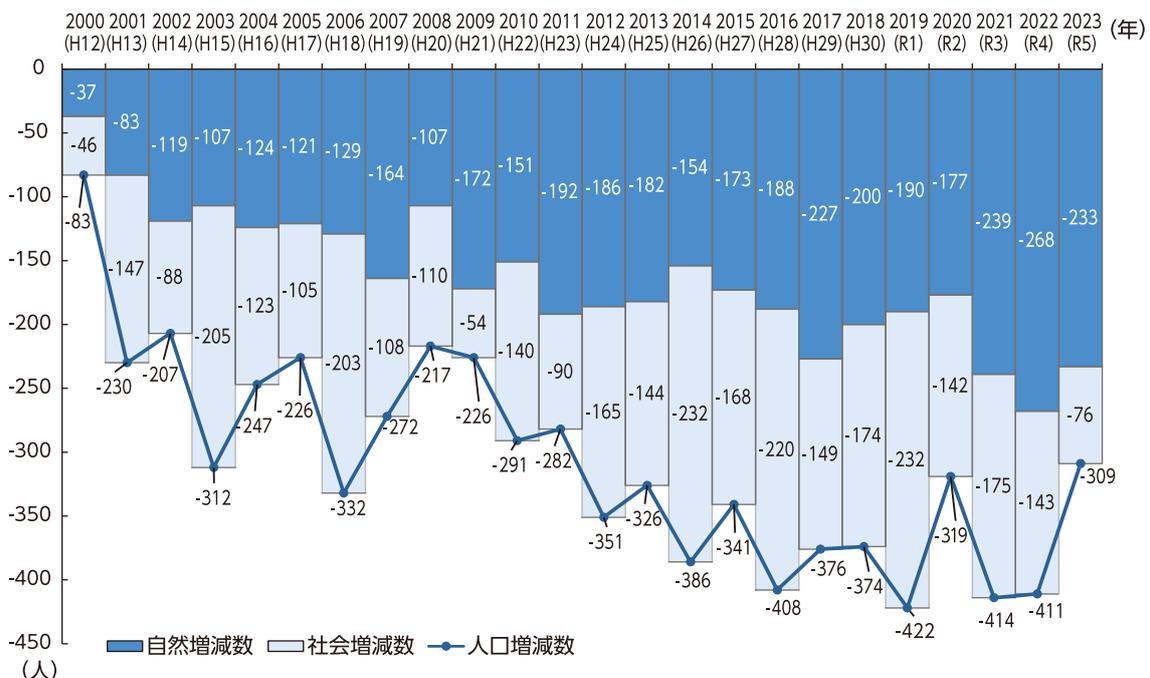
出生数と死亡数の差である自然増減は、2000年から一貫して出生数より死亡数の方が多い「自然減」で推移しており、長期的にみると、その幅も拡大しつつあります。

転出数と転入数の差である社会増減は、2000年から一貫して転入数より転出数の方が多い「社会減」で推移しており、その幅は上下にぶれていますが、近年はやや減少幅が小さくなっています。この傾向が継続するのかどうか、引き続き動向を注視していく必要があります。

自然増減数の内訳(出生数・死亡数)の推移をみると、死亡数は2022年の314人を除き、2000年から一貫して200人台で推移していることがわかります。出生数は、2000年代はほとんどの年で100人を超える一方で、2012年以降は一貫して100人を下回るようになり、さらに2021年以降は50人を下回るようになりました。したがって、近年では特に出生数の減少が自然減に大きく影響するようになってきたといえます。

社会増減数の内訳(転入数・転出数)の推移をみると、一貫して社会減で推移する中で、長期的にみると、転入者も転出者も緩やかに減少していることがわかります。これは、長期的な人口減少により、人口規模自体が縮小してきていることを示しています。

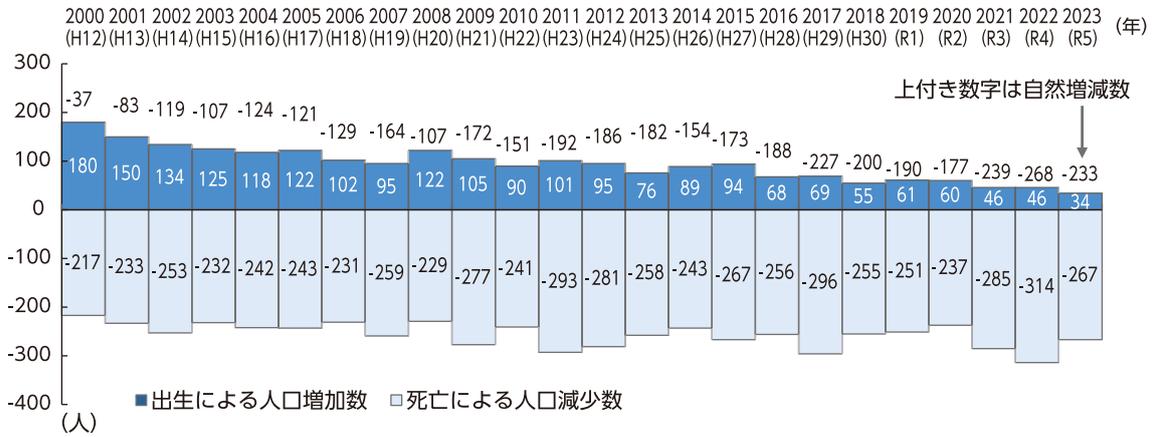
図表3 自然増減数と社会増減数の推移



(備考) 1. 「総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成。  
2. 2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

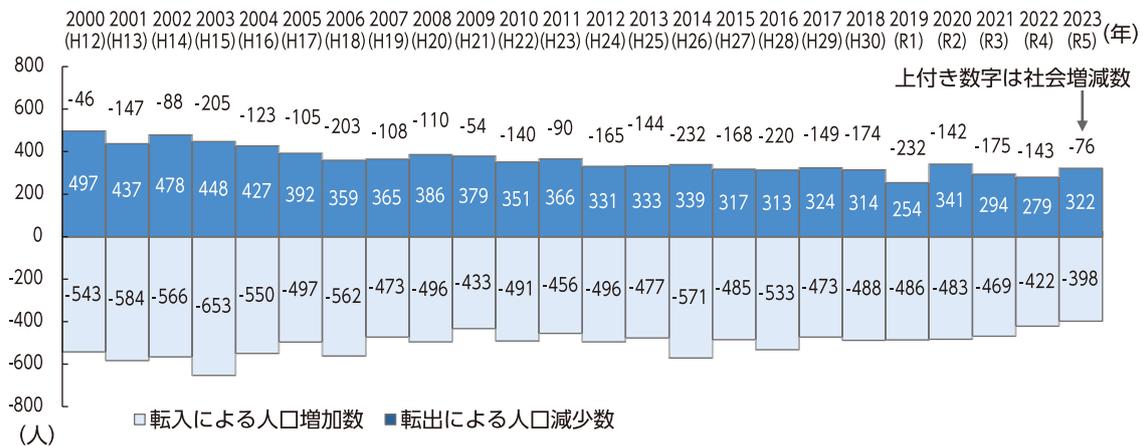


図表4 自然増減数の内訳(出生数・死亡数)の推移



(備考) 1.「総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成。  
 2.2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

図表5 社会増減数の内訳(転入数・転出数)の推移



(備考) 1.「総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」より作成。  
 2.2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

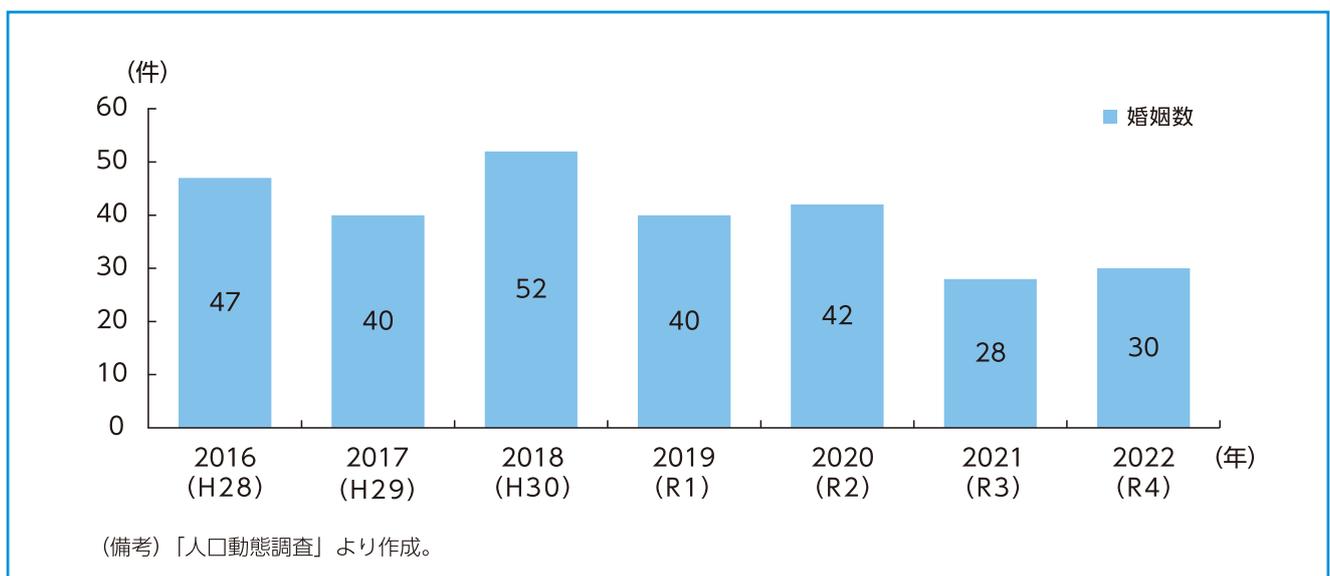


# 3 婚姻数と婚姻率

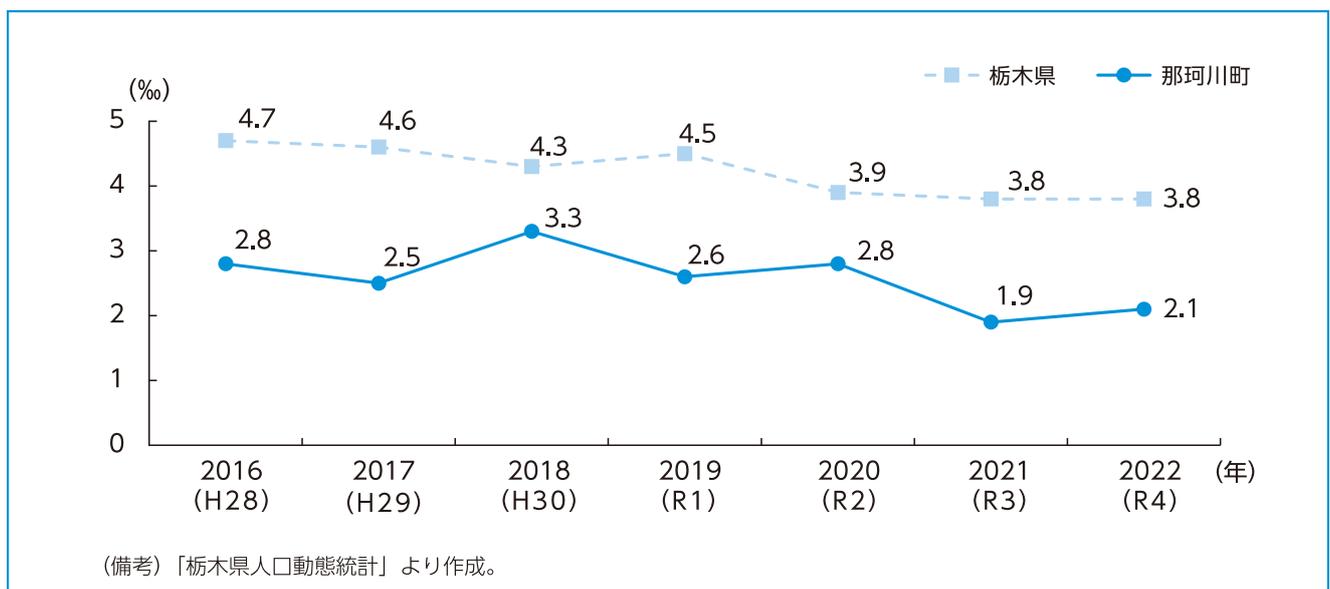
婚姻数は、2016年から2020年までは40～50件程度で推移していたものの、2021年以降は20～30件にとどまっています。原因としては、総人口の減少が考えられますが、他にはコロナ禍による一時的な減少も考えられるため、引き続き動向を注視していく必要があります。

人口千人あたりの本町の婚姻率は、2016年以来、栃木県と比較して一貫して低くなっています。さらに近年では、栃木県、本町ともに低下傾向にあります。

図表6 婚姻数の推移



図表7 婚姻率(人口千対)の推移



## 4 合計特殊出生率

本町の合計特殊出生率は、一貫して栃木県全体より低くなっています。

また、本町と全国を比較すると、2003～2007年の時点では全国よりやや高かったものの、2013～2017年では全国より低くなり、2018～2022年ではさらにその差は広がっています。

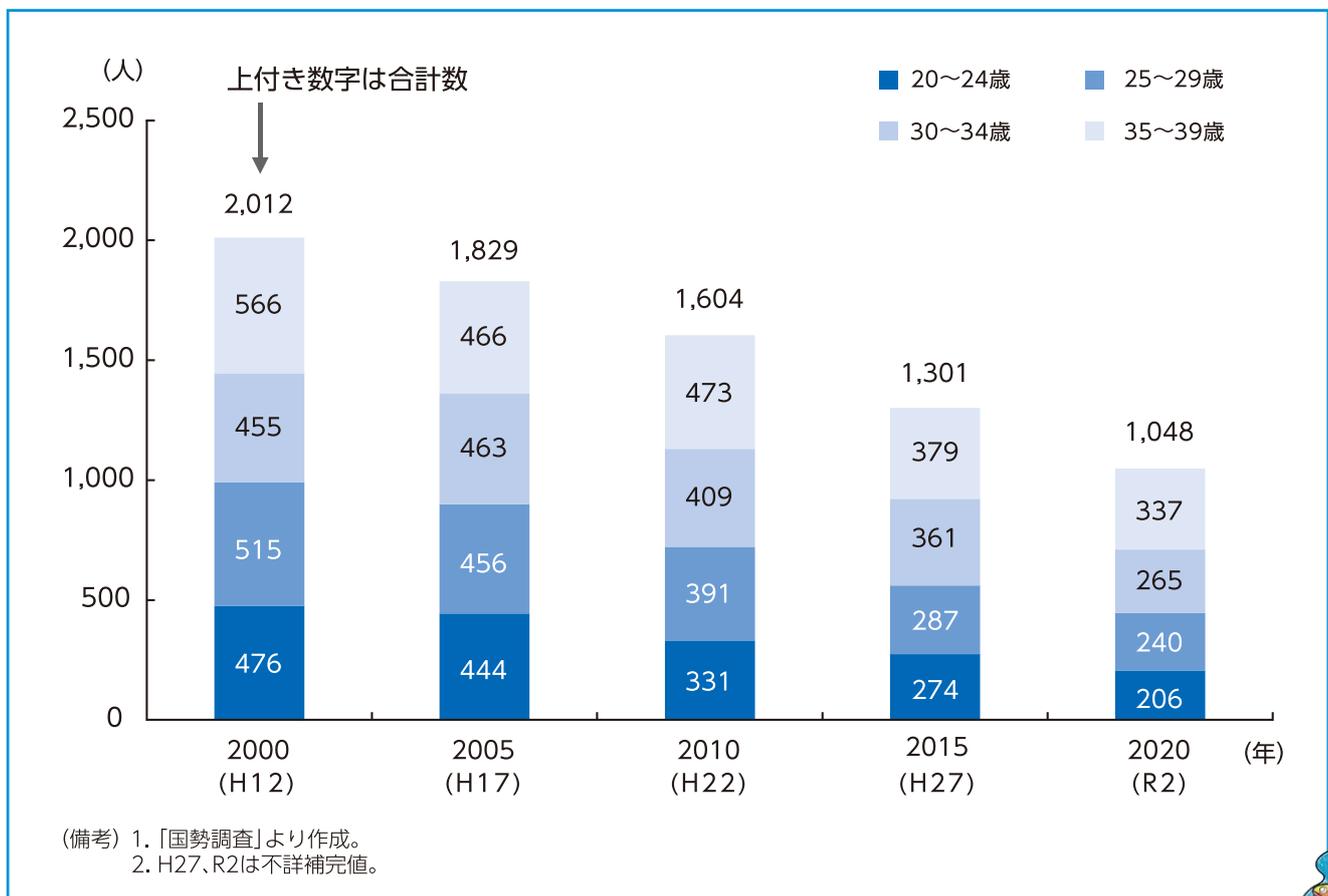
出生数に影響を与える20～39歳の女性人口の推移は、ほぼすべての区分において、長期的な減少傾向にあります。また、その合計数は2000年の約2,000人から2020年には1,048人と、半数近くまで減少しています。

図表8 合計特殊出生率の推移

	2003～2007年 (平均)	2008～2012年 (平均)	2013～2017年 (平均)	2018～2022年 (平均)
全国	1.31	1.38	1.43	1.33
栃木県	1.42	1.45	1.46	1.34
那珂川町	1.34	1.38	1.34	1.18

(備考) 「人口動態統計特殊報告」より作成。

図表9 20～39歳の女性人口の推移

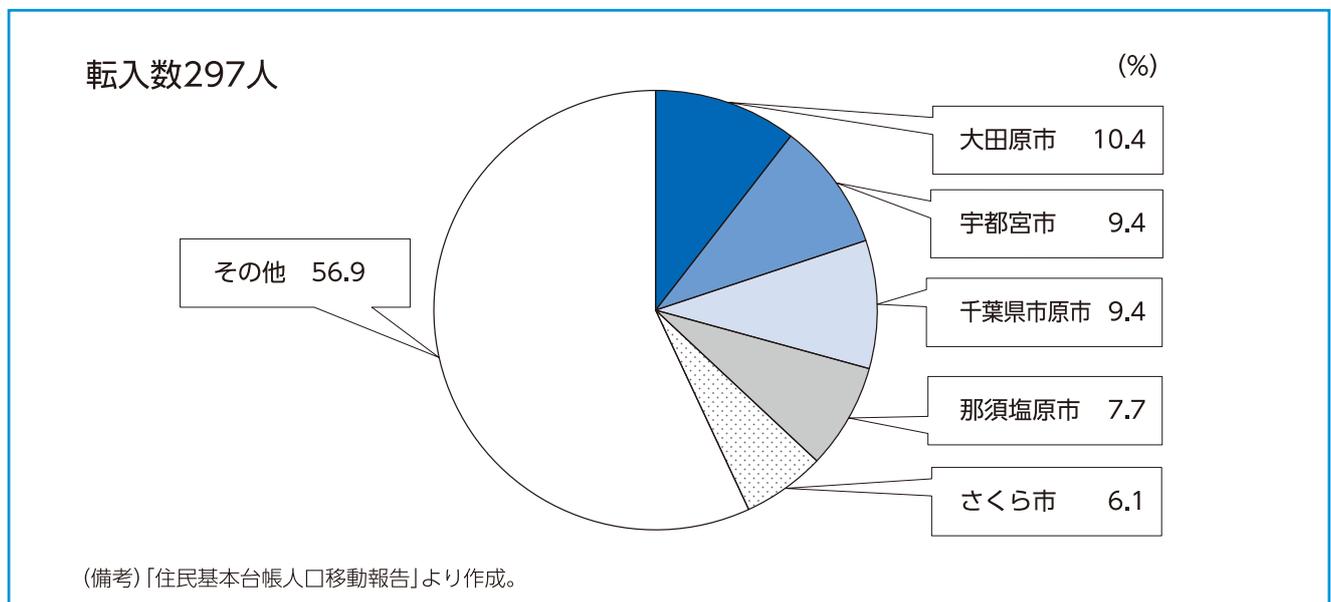


## 5 転入元と転出先

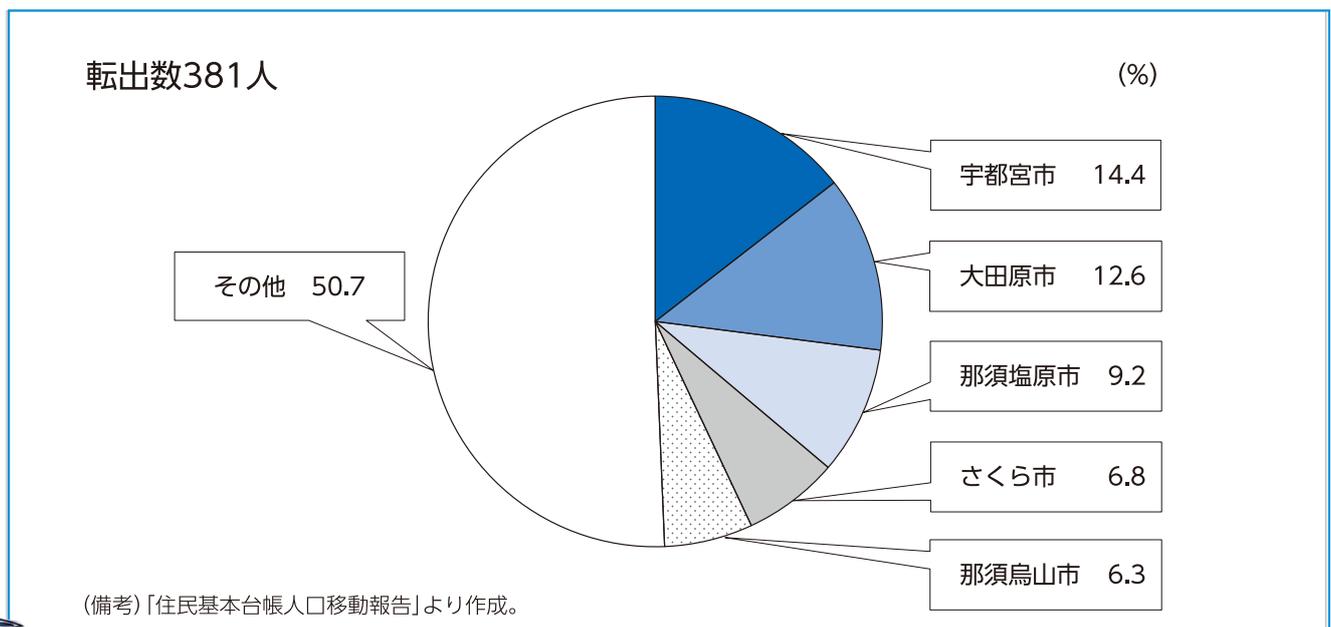
2023年の転入元をみると、大田原市が10.4%で最も多く、次いで宇都宮市と千葉県市原市が同率で9.4%、那須塩原市が7.7%となっています。

同年の転出先をみると、宇都宮市が14.4%で最も多く、次いで大田原市が12.6%、那須塩原市が9.2%となっています。

図表10 主な転入元(2023年(令和5年))



図表11 主な転出先(2023年(令和5年))

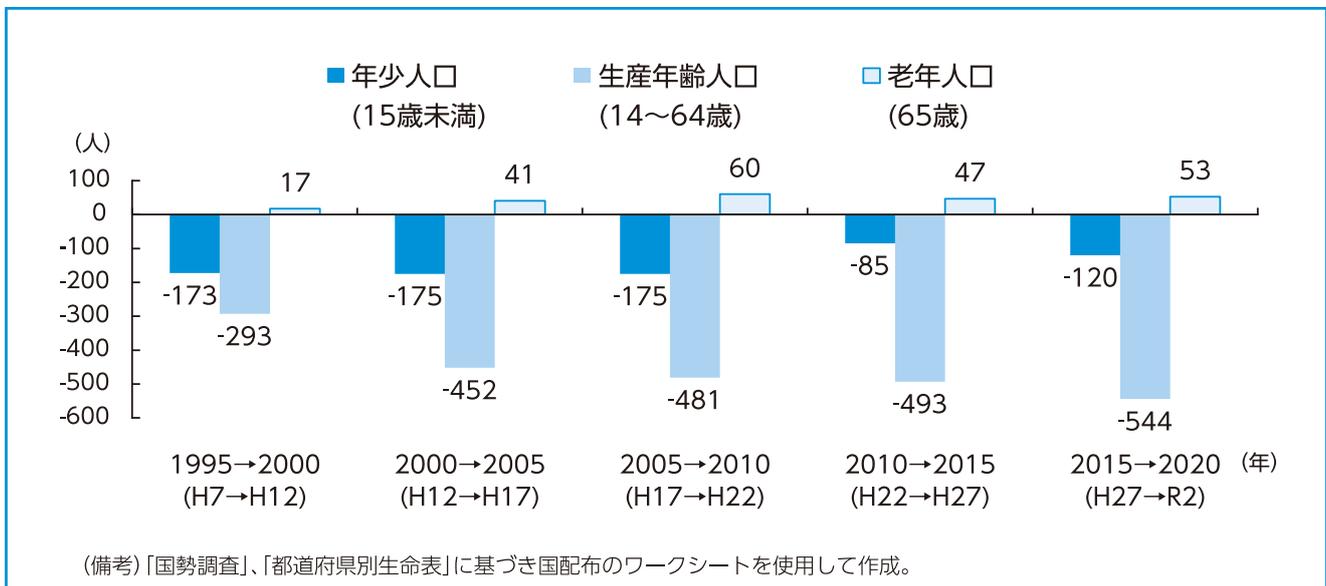


## 6 移動数

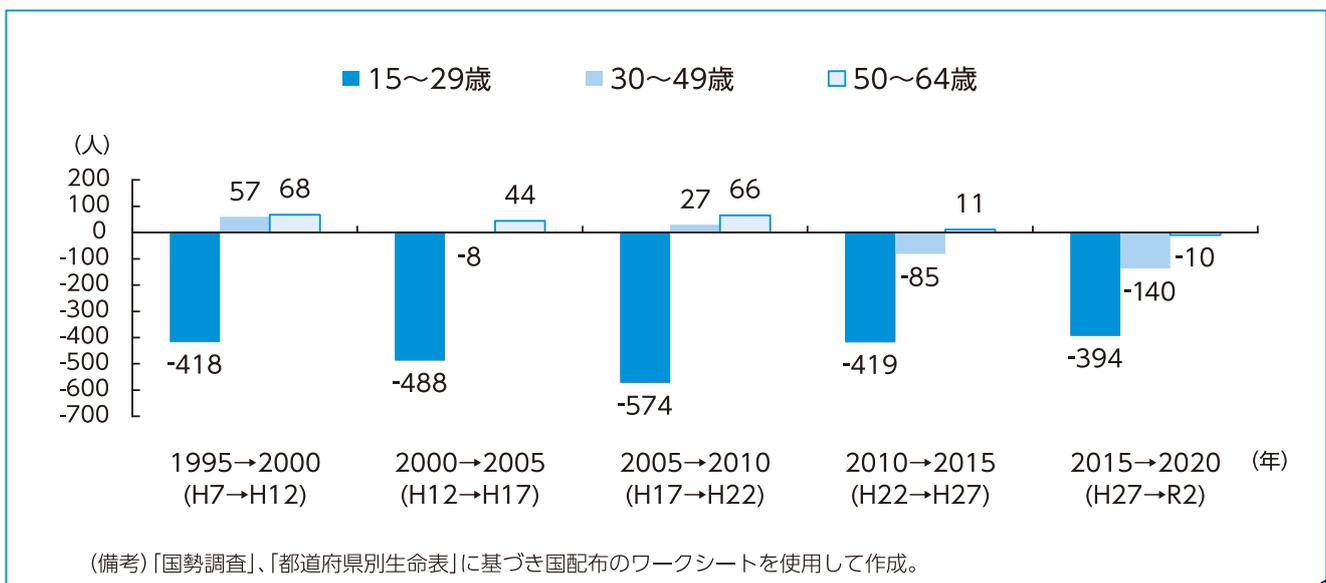
転入・転出等による移動数(例えば、0～4歳の人は5年後には5～9歳になりますが、その移動の値を示したものの)の推移を年齢(3区分)別でみると、年少人口と生産年齢人口の町外への移動が多くみられることから、これらが高齢化の要因になっているといえます。

また、生産年齢人口の移動数の推移を15～29歳、30～49歳、50～64歳の年齢別でみると、30歳未満の移動が特に多いことから、こうした若者の町外への流出が人口減少を加速させている要因の一つといえます。

図表12 年齢(3区分)別人口の移動の推移



図表13 生産年齢人口の移動の推移



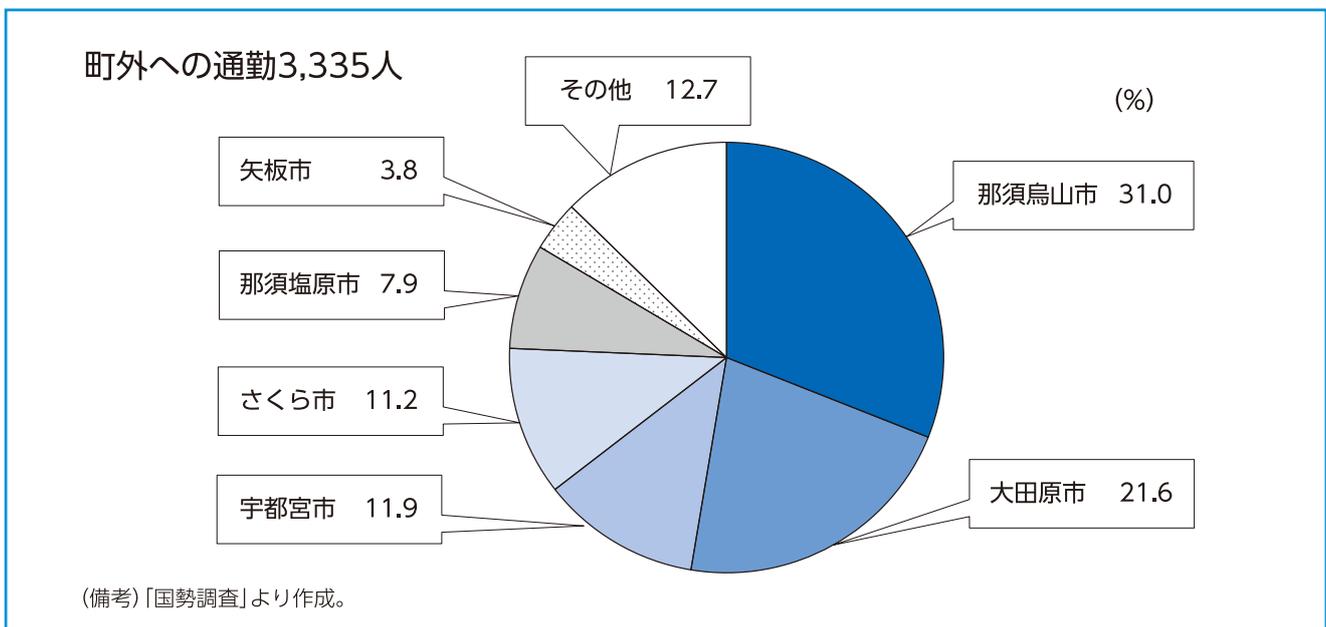
## 7 通勤の状況

2020年における町外への通勤の状況を見ると、那須烏山市と大田原市の隣接市方面が半数以上を占めています。

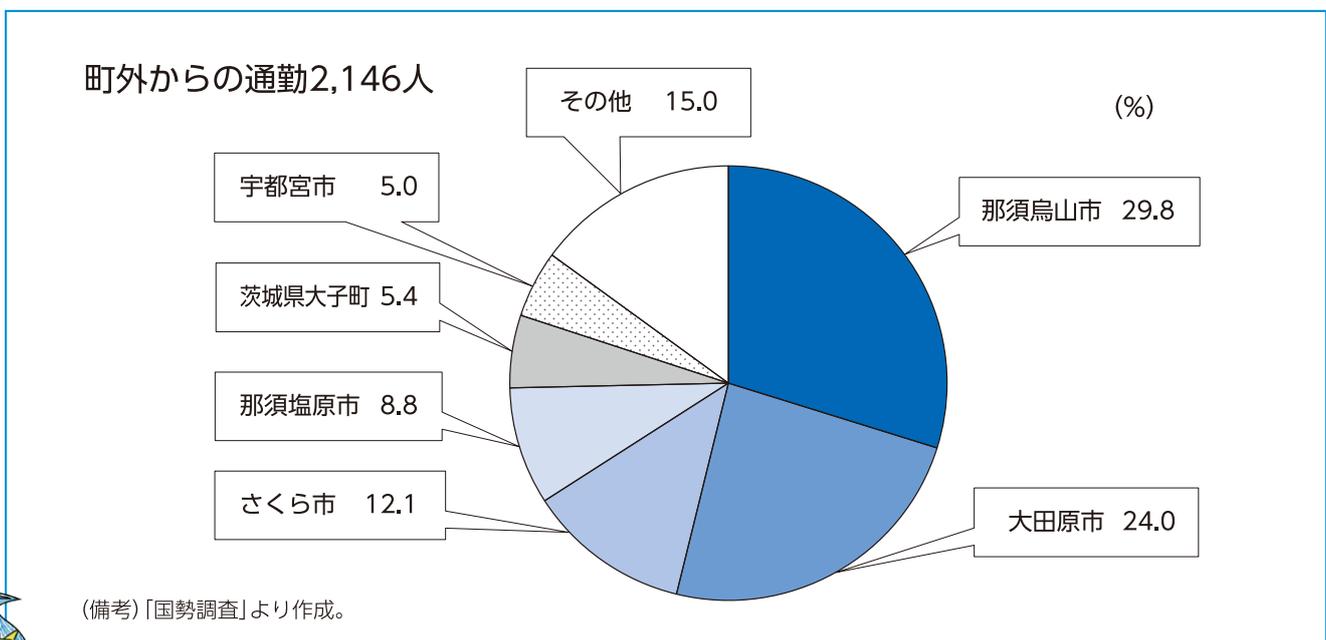
町外からの通勤の状況を見ても、これら2市方面からの通勤が多くなっています。

なお、町外から町内へ通勤する人数(2,146人)よりも、町内から町外へ通勤する人数(3,335人)の方が1,200人程度多くなっています。

図表14 町外への通勤(2020年)



図表15 町外からの通勤(2020年)



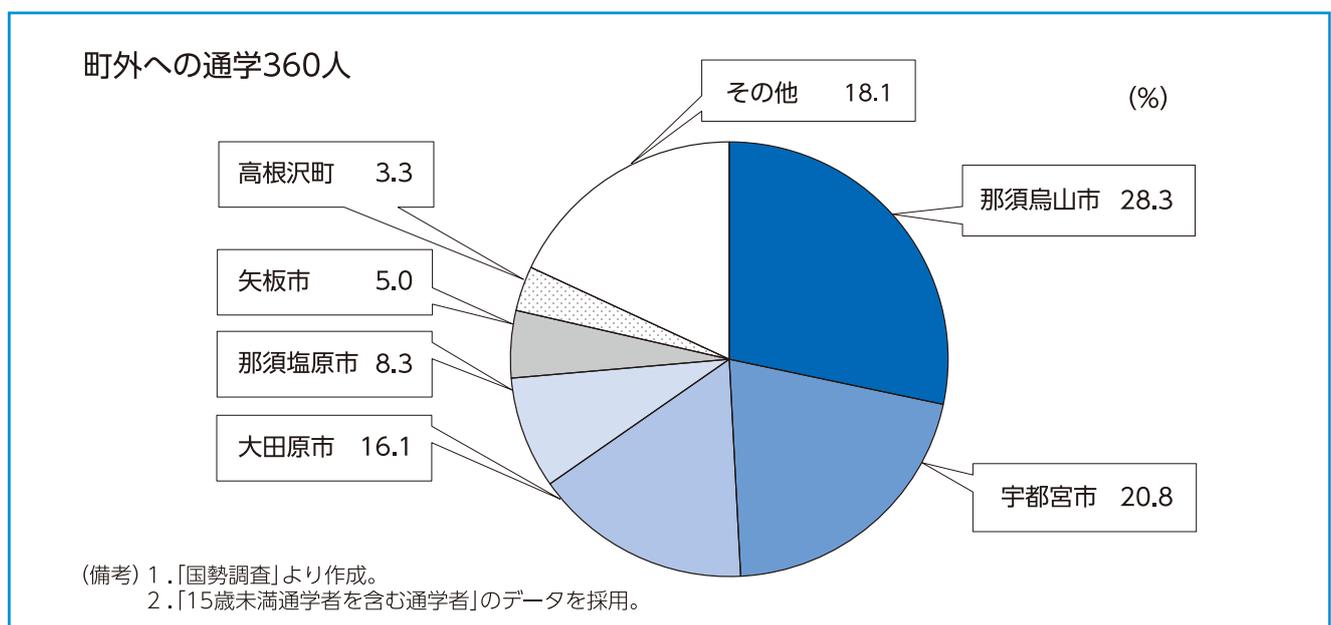
## 8 通学の状況

2020年における町外への通学の状況を見ると、那須烏山市と宇都宮市で半数近くを占めています。

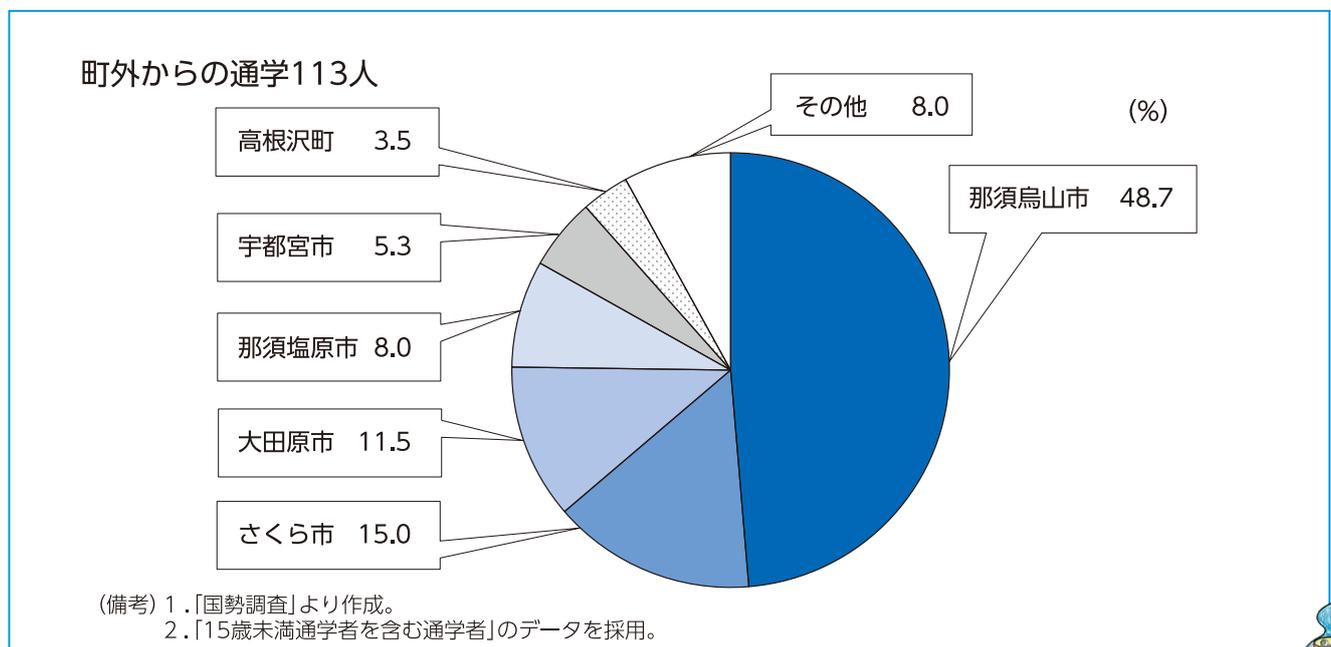
町外からの通学の状況を見ると、那須烏山市からの通学が半数近くを占めています。

なお、町外から町内へ通学する人数(113人)よりも、町内から町外へ通学する人数(360人)の方が250人程度多くなっています。

図表16 町外への通学(2020年)



図表17 町外からの通学(2020年)



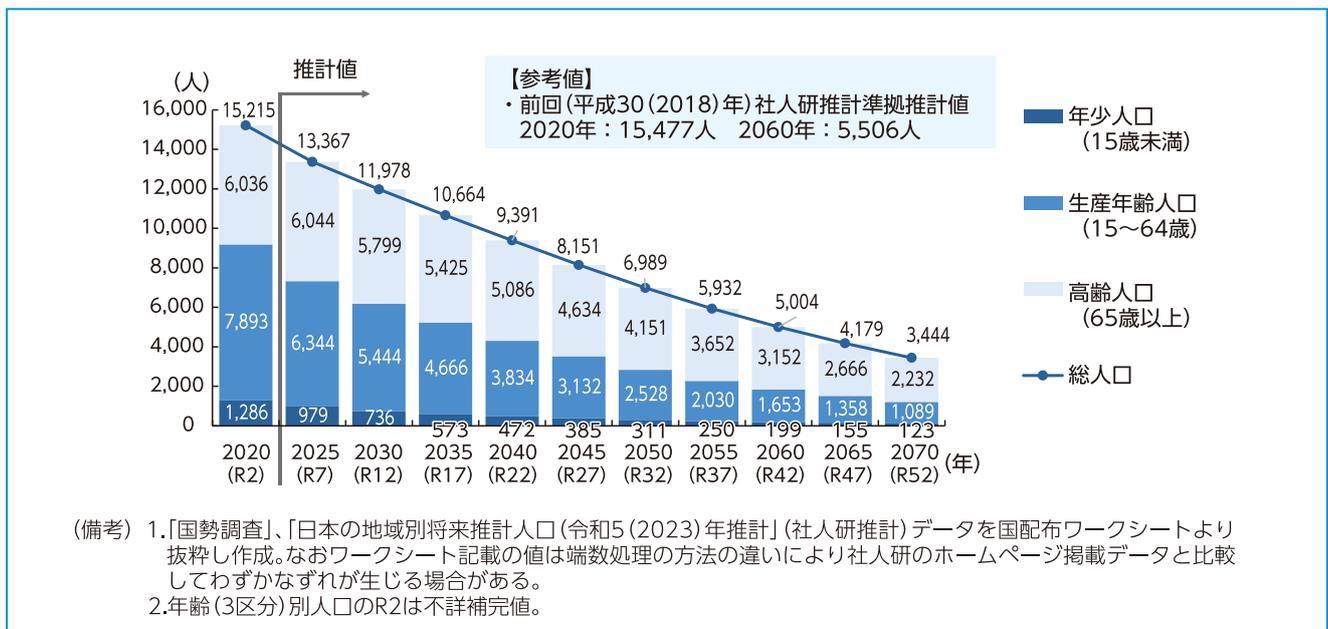
## 第2章 人口推計(社人研推計準拠)

国立社会保障・人口問題研究所(以下『社人研』)の推計に準拠した推計によると、本町の人口は、2020年(令和2年)の15,215人から、40年後の2060年(令和42年)には、67.1%減の5,004人にまで減少するという推計結果が出ており、前回の推計(5,506人)を500人程度下回っています。

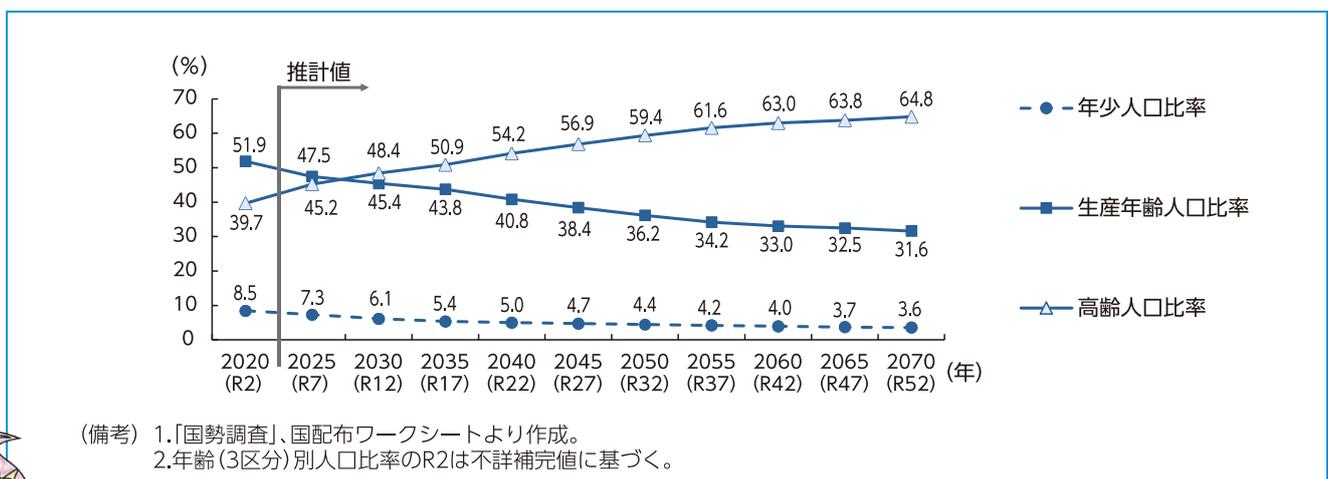
また、年齢(3区分)別人口の推移をみると、各区分で減少が続き、特に、生産年齢人口は79.1%減少し、年少人口は84.5%減少するという推計結果が出ていることから、本町の人口減少は深刻な状況にあります。

こうした中、高齢人口比率は次第に高まり、2035年には50%を超えると推計されています。

図表18 人口推計[総人口・年齢(3区分)別人口](社人研推計準拠)



図表19 人口推計[年齢(3区分)別人口比率](社人研推計準拠)



## 第3章 人口の将来展望(独自推計)

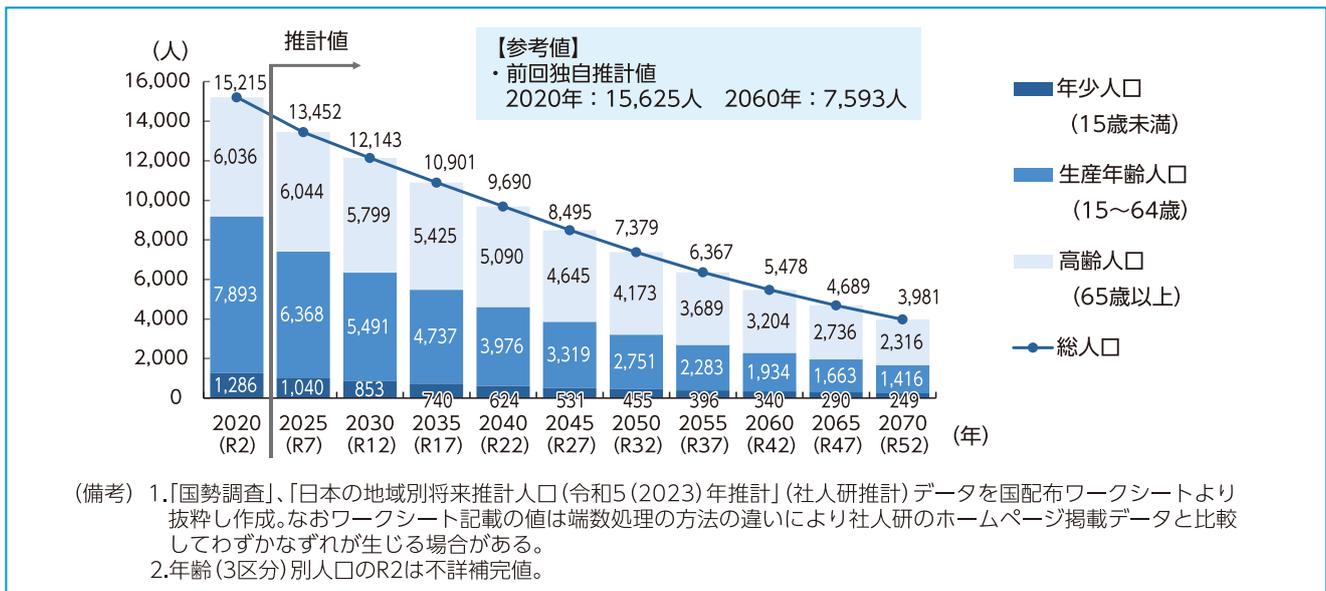
近年の人口の現状分析や今回の人口推計(社人研推計準拠)を踏まえると、前回の人口ビジョンの策定時よりも人口減少が加速していることがわかります。また、前回の人口の将来展望の2020年人口「15,625人」に対し、実績値は「15,215人」で、400人程度下回っています。これらのことから、今回の人口の将来展望は、実態に即して下方修正し、以下のとおりとします。

- 35年後の2060年に、総人口約5,500人を確保する。
- 35年後の2060年に、合計特殊出生率1.60を目指す。

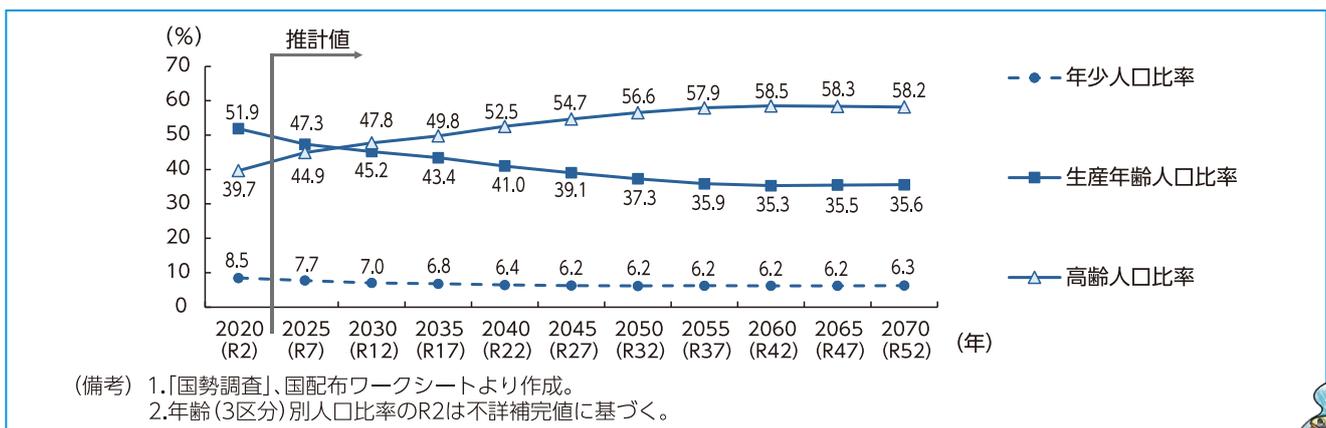
### 【独自推計における設定】

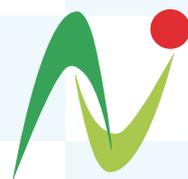
- 合計特殊出生率:2025年の合計特殊出生率を1.30とし、以降5年ごとに2055年まで0.05ポイント上昇させ、2055年に1.60とし、以降はこれを維持させる。
- 純移動率:社人研の推計を援用する。
- 純移動数:2070年まで、20~54歳人口の純移動数を年間で20人程度増加させる。

図表20 人口の将来展望[総人口・年齢(3区分)別人口](独自推計)



図表21 人口の将来展望[年齢(3区分)別人口比率](独自推計)





那珂川町

## 那珂川町 人口ビジョン

令和8年3月

---

発行：那珂川町 企画財政課 企画調整係  
〒324-0692 栃木県那須郡那珂川町馬頭555番地  
TEL.0287-92-1114 FAX.0287-92-1316  
URL：<https://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp/>